

縄文研究の地平 2019 研究集会

1. 日時 : 2019年12月15日 10:00~16:30
2. 場所 : 東京都埋蔵文化財センター 会議室
3. 主催 : 縄文研究の地平グループ
4. 共催 : 東京都埋蔵文化財センター
5. 内容 : 「縄文研究の地平 2019~層位/分層、遺物ドット・接合からみた遺跡形成~」

- 受付・開場 (9:30~10:00)
- 趣旨説明 黒尾和久 (10:00~10:15)
- 報告1 及川良彦 (10:15~11:00)

「遺構」論の今—「遺構」とは—

考古資料は様々な要素から構成されている。「遺構」もその一つである。しかし、「遺構」という日本考古学の用語は1960年代から使用されるようになった比較的新しい用語で、じつは、まだ60年程度しかたっていない。しかも、その「遺構」という用語の意味する内容も、当初の意味から見ると大きく変容しつつある。こうした「遺構」について考える。

- 報告2 村本修三 (11:00~11:45)

「10年前の調査成果~オライネコタン4遺跡~を使おうとしたら意外と大変だった」
2008年に発掘したオライネコタン4遺跡について、遺物のドット・接合データを再分析し、遺跡の地形復元を試みた。また、過去のデータの再利用にあたって生じた問題をとおして、データの保存のあり方についても述べる。

～休憩～

- 報告3 小野本敦 (13:00~13:45)

「遺物の出土位置情報から災害を可視化する—新潟県村上市上野遺跡での実践—」
土石流堆積物中から出土した遺物の出土位置情報をGISで解析することにより、土砂崩れの発生位置と発掘調査区への流入状況を推定した。接合が期待できないケースにおける遺物ドットデータの利用方法の一例を紹介する。

- 報告4 立神倫史 (13:45~14:30)

「上野原遺跡(第10地点)「環状遺棄遺構」の検討」

鹿児島県上野原遺跡で確認された縄紋時代早期後葉前半の壺型土器をはじめとする埋設土器群とその周囲に遺物が環状に分布する状況は、「環状遺棄遺構」や「環状集落」などの評価がなされてきた一方で、環状の形成過程についての検討が十分ではなかった。今回、再設定した土器編年に基づき「環状遺棄遺構」の形成過程と祭祀遺構と解された土器接合のあり方について再検討する。

- コメント 小林謙一・五十嵐彰・竹岡俊樹
- 6. その他 : 参加予定人数 最大120人
: 参加費 無料
: 事前申込み 不要

7. 連絡先

縄文研究の地平グループ

2019年研究集会担当世話人 黒尾和久

住所: 〒183-0006 府中市緑町1-22-1-405

TEL: 090-8814-4678 E-Mail: b-tail9@wonder.ocn.ne.jp